

I 芦屋の魅力を活かし、新しいひとの流れをつくる

1 シティプロモーション

No.	実施項目 実施概要	年度					令和元年度目標値 及び備考など	重要業績評価指数 (K P I)	実施状況等（平成30年度）	目標の達成状況		左記（実施状況等（平成30年度））の根拠
		27	28	29	30	R1				状況	状況が「C」「D」の場合の理由	
①	<p>芦屋流情報発信プロジェクト 担当課：企画政策課</p> <p>町の情報の収集発信を集約し、効果的にセールスを行う部署を創設します。 また、町の情報の収集や発信が1箇所のできる仕組みづくり（ポータルサイトなど）や、SNSなどを活用した効果的な情報発信を推進します。 さらに、イメージキャラクターやロゴマークを活用するとともに、プロモーションツールの製作を展開し、統一イメージでの町の情報発信を推進します。</p>						<p>プロモーションの件数（累計）40件 H27 2件 H28 13件 H29 19件 H30 6件 ※町村フェア、クルーズ船イベント等の参加</p>	<p>・観光情報サイトを構築したが動画投稿サイトなど一部運用にいたっていないものがあります。 ・SNS（フェイスブック、Instagram）に関して運用が明確になっておらず、現時点で効果が限定的な状況であったため、若手職員によるワーキングチームを設置し検討しています。 ・アッシーは各種イベントに参加し町のPRに活用しています。 ・積極的にプロモーションに参加するとともに、各種ツール（ポロシャツ）を制作し効果的な活動を行いました。</p>	B		<p>○観光情報サイト（平成28年度開設） 平成28年度 17回更新 平成29年度 34回更新 平成30年度 34回更新 ○フェイスブック（平成27年度開設） 平成27年度 年46回更新 平成28年度 年148回更新 平成29年度 年131回更新 平成30年度 年36回更新 ○Instagram 平成28年度 24回更新 平成29年度 58回更新 平成30年度 23回更新 ○職員ワーキングチーム会議 平成30年度 5回 ○アッシー活動 平成26年度 3回活動 平成27年度 38回活動 平成28年度 55回活動 平成29年度 42回活動 平成30年度 41回活動 ○ノベルティ配布件数 平成27年度 年36回配布 平成28年度 年40回配布 平成29年度 年50回配布 平成30年度 年16回配布 ○プロモーションの件数（累計） 40件 平成27年度 2件 平成28年度 13件 平成29年度 19件 平成30年度 6件</p>	
②	<p>あしやファン倶楽部の創設 担当課：企画政策課</p> <p>町外者を対象に「あしやファン倶楽部」を組織し、様々な情報を定期的に発信し、町の情報をファン倶楽部会員が発信する仕組みづくりを推進します。 ふるさと納税の魅力向上を図るとともに、町のプロモーションツールとして活用を推進します。併せて、同窓会等の機会を利用した芦屋出身者への町のPRを依頼していきます。</p>	検討	検討	検討			<p>あしやファン倶楽部会員数 H27 0人 H28 0人 H29 0人 H30 0人</p>	<p>・あしやファン倶楽部創設について検討をしているが、制度創設にいたっていません。 ・ふるさと納税は平成30年11月に「楽天ふるさと納税サイト」を追加し、寄付額の増額を図りました。 ・同窓会等の情報収集にいたっていません。</p>	B		<p>○ふるさと納税件数 平成27年度 62件 平成28年度 64件 平成29年度 94件 平成30年度 434件 ○あしやファン倶楽部会員数 平成27年度 0人 平成28年度 0人 平成29年度 0人 平成30年度 0人</p>	

No.	実施項目 実施概要	年度				令和元年度目標値 及び備考など	重要業績評価指数 (KPI)	実施状況等(平成30年度)	目標の達成状況		左記(実施状況等(平成30年度))の根拠
		27	28	29	30				R1	状況	
	2 芦屋流おもてなし まちかど観光案内所の設置 担当課：産業観光課										
①	町内の事業所などに共通ののぼりや看板、ステッカーなどを掲出し、どこでも共通の情報発信やおもてなしができる「まちかど観光案内所」の設置を推進し、一定基準以上のおもてなしができるよう研修制度などの仕組みづくりを図ります。 イベント告知や旬な情報発信などを行う看板などの整備やサインの整備・充実を図るとともに、AR機能やQRコードの活用など、スマホアプリによる観光案内や情報発信について調査研究し、導入にむけて取り組みます。	一部実施	検討	一部実施	一部実施	一部実施	まちかど観光案内所利用者数(累計) 612人 H27 芦屋釜の里にて、期間限定で観光案内所設置利用者数112人 H30 岡湊神社にて期間限定設置 利用者約500人	・まちかど観光案内所設置に向けて、あしやナビ協議会にて協議・調整を行っています。 ・あしやナビ協議会にて「あしやナビガイドブック」を作成し、町内各事業所に設置しました。 ・あしやナビ協議会にて、岡湊神社のなんじゃもんじゃの開花に併せて、仮設の観光案内所を設置しました。 ・イベント告知や旬な情報発信などを行うため、観光協会にデジタルサイネージを設置しました。 ・AR機能やQRコードの活用による、観光案内や情報発信については、「あしやナビガイドブック」に掲載し、詳細ホームページへ誘導しています。	B		○あしやナビ協議会 観光案内所設置等に向けた協議 3回 平成30年度 観光案内所設置等に向けた協議 2回 ○まちかど観光案内所の設置 平成27年度 芦屋釜の里にて期間限定 観光案内所設置 利用者数112人 平成30年度 時期：平成30年4月28日～5月2日 場所：岡湊神社 利用者数：約500人 平成29年度 あしやナビガイドブック 作成・設置(75箇所) 利用者数不明 平成30年度 あしやナビガイドブック設置 75箇所 ※来店者への観光案内に活用
②	生涯学習講座あしや塾と連携し、町民ボランティアによる観光ガイドを育成することで、町民のシビックプライド醸成を図るとともに、来町者へのおもてなしの心を醸成し、ツーリズム観光の推進を図ります。	検討	検討	一部実施	検討	検討	講座の開催 H29 1件(観光あしや協議会) H30 1件(観光あしや協議会)	・日本フットバス協会の講師を招いて、観光あしや協議会委員を対象に、観光ガイドの講義を行いました。(平成29年度) ・平成30年度に観光ガイドの育成に関する検証について、芦屋町観光協会に依頼しました。 ・平成31年3月17日に芦屋町観光協会が主催し、熊本県美里町に観光ガイド事業先進視察研修を行いました。	C	先進地視察等により検証を行いました。観光ガイドの育成までにはいたっていません。	○講座の開催 平成29年度 1回(観光あしや協議会) 平成30年度 全体回 4回、実行部会 4回、観光基本構想評価部会 2回 ○観光ガイドの実施 ※遠賀中間広域連携プロジェクト実績より 平成28年度 3回 平成29年度 4回 平成30年度 3回 ○先進地視察の開催 実施日 平成31年3月17日 場所 熊本県美里町 参加者 22人(観光あしや協議会委員2人、PTA役員6人、区長2人、商工会3人、リードボランティアセンター3人、一般1人、産業観光課1人、観光協会【事務局】4人)
③	町民向け情報発信プロジェクト 担当課：企画政策課						町民向け情報発信件数(累計) 48件 H27 12件 H28 12件 H29 12件 H30 12件 ※広報あしや	【広報情報係】 ・町民向けに「広報あしや」の毎月1日号で町内で行われている活動等を発信しました。 ・町民向けに行政情報・観光情報をまとめた「暮らしのガイドブック」を発行しました。 【地方創生推進係】 ・町民向け情報発信の仕組みづくりについては、業務委託調査結果をもとに進めています。 ・遠賀中間地域広域連携プロジェクトによる「水辺のくに博覧会」や、芦屋町独自の体験プログラム「あしや体験隊」を実施しています。	B		○情報発信件数(広報あしや) 平成27年度 12件 平成28年度 24件 平成29年度 36件 平成30年度 48件 ○体験プログラム実施回数 平成27年度 0件 平成28年度 3件 平成29年度 4件 平成30年度 5件 広報・情報係：A 地方創生推進係：B

達成状況 AA：(当初の計画を前倒しで推進している) A：(計画どおり推進している) B：(一部を除き当初の計画どおり推進している)

C：(全体的に当初の計画から遅れている) D：(ほとんどが未着手である)

④	あしや観光大使の創設 担当課：企画政策課	検討	検討	検討	一部実施	一部実施	・あしや観光大使数 30人	あしや観光大使数 H27 0人 H28 0人 H29 0人 H30 2人	・あしや観光大使制度を創設し、向井宗敏氏（映画監督）、ハジメ氏（歌手）の2人を任命しました。 ・「芦屋検定制度」「芦屋自慢1人1つプロジェクト」について、制度創設にいたっていません。	B		○あしや観光大使数 平成27年度 0人 平成28年度 0人 平成29年度 0人 平成30年度 2人
	芦屋検定制度などにより一定条件をクリアした人を「あしや観光大使」として任命し、様々な機会でのプロモーション活動を行う仕組みづくりを推進します。 また、「芦屋自慢1人1つプロジェクト」などにより、町民一人ひとりが、多くの人に芦屋の良さを発信してもらう取り組みを推進します。											
⑤	Wi-Fiスポットの整備 担当課：企画政策課	検討	検討	一部実施	一部実施	一部実施	・Wi-Fiスポットの整備 箇所数 15箇所	Wi-Fiスポット整備箇所 H27 0箇所 H28 0箇所 H29 4箇所 H30 4箇所	・競艇場に設置しました。 ・3箇所（マリンテラス・アクアシアン・釜の里）にモデル設置しています。 ・令和元年度2箇所（中央公民館・総合体育館）の設置に向けての準備を行いました。	B		○Wi-Fiスポット整備箇所 平成27年度 0箇所 平成28年度 0箇所 平成29年度 4箇所 平成30年度 4箇所
	町内の公共施設や観光施設にフリーWi-Fiの整備を推進します。また、観光ゾーンや中心市街地を中心とした屋外への拡大も図ります。											

3 地域資源を活かした観光づくり												
No.	実施項目 実施概要	年度				令和元年度目標値 及び備考など	重要業績評価指数 (K P I)	実施状況等（平成30年度）	目標の達成状況		左記（実施状況等（平成30年度））の根拠	
		27	28	29	30				RI	状況		状況が「C」「D」の場合の理由
①	海岸線や海を活かした魅力向上プロジェクト 担当課：産業観光課	検討	検討	一部実施	一部実施	・観光入込客数 585,000人	観光入込客数（集計は年単位：福岡県観光入込客推計調査による） H27 652,000人 H28 634,000人 H29 568,000人 H30 634,274人	・観光推進プロジェクトを、観光あしや協議会として芦屋町観光基本構想の推進組織として再構築（平成29年度）し、平成30年度から実質的な協議を開始しました。 ・海浜公園の既存遊具の安全性確保のための改修等を随時行っています。 ・夏井ヶ浜はまゆう公園展望台（釜風呂跡地）において、映画の撮影が行われました。また、夏井ヶ浜はまゆう公園における恋人の聖地モニュメントについては、カップル等をターゲットとした愛鍵が好評で来園者の増加にも繋がっています。	B		○観光あしや協議会 平成28年度 再構築に向けた協議 3回 平成29年度 発足会 1回 平成30年度 全体回 4回、実行部会 4回、観光基本構想評価部会 2回 ○海浜公園、夏井ヶ浜はまゆう公園の改修 ・海浜公園 平成27年度 大型複合遊具設置・既存複合遊具補修 平成28年度 既存複合遊具補修 ・夏井ヶ浜はまゆう公園 平成29年度 モニュメント設置 平成30年度 愛鍵販売状況 販売数 384個 総売上額 345,600円 ※900円/個 ○ビーチマーケット（主催：芦屋ビーチフェスティバル実行委員会） 平成27年度 芦屋ビーチフェスティバル2016（ビーチマーケット） 平成28年度 芦屋ビーチフェスティバル2017（ビーチマーケット） 平成29年度 芦屋ビーチフェスティバル2018（ビーチマーケット） 平成30年度 実施なし ○観光入込客数 平成30年度 634,274人	
	海浜公園や夏井ヶ浜はまゆう公園の整備、洞山エリアの観光整備など、変化に富んだ海岸線を活かした魅力づくりを推進します。 また、ビーチサッカーやビーチバレーなど良質な砂を活かしたビーチスポーツ誘致を推進するとともに、マリンスポーツやマリッジの誘致を図ります。											

<p>歴史・文化資源魅力向上プロジェクト 担当課：生涯学習課</p> <p>② 歴史文化資源の情報発信やネットワーク化、まち歩きやニューツーリズム観光と連携した受入環境を整備します。 また、芦屋歴史の里の魅力向上のため企画展や体験型講座などの充実を図ります。</p>	一部実施	一部実施	一部実施	一部実施	<p>・芦屋歴史の里年間来場者数 6,000人</p>	<p>芦屋歴史の里年間来場者数 H27 3,935人（有料：3,516人、無料：419人） H28 7,284人（有料：6,840人、無料：444人） H29 3,879人（有料：3,393人、無料：486人） H30 3,837人（有料：2,996人、無料：544人）</p>	<p>・歴史文化資源の情報発信を図るため、企画展等の新聞・テレビでのPRを行いました。 ・まち歩き等体験型プログラムとして、町内史跡めぐりや遠賀中間広域連携プロジェクト「水辺のくに博覧会」に参加し、体験プログラムを実施しました。 ・歴史の里特別企画展を年2回実施しました。また、体験型講座を年3～4回実施しました。</p>	B		<p>・平成28年度ホームページの改定を実施 ○水辺のくに博覧会 まちあるき 平成28年度「中近世の港町・芦屋を歩く」(13名) 平成29年度「歴史を育んだ港町知られざる芦屋をまちあるき」(39名) 平成30年度「芦屋の歴史を学びながら、B級グルメさんまい！」(16名) ○歴史の里企画展 平成27年度 「復興芦屋釜と金屋遺跡」入館者1,371名 「芦屋の役者展～芦屋千軒、役者千両～」入館者1,184名 平成28年度 「昭和の暮らし展」入館者4,354名 「お手柄！団兵衛さん展」入館者1,473名（うち平成28年度内754名） 平成29年度 「引き札展」入館者1,990名 「杉山家の人々」入館者1,135名（うち平成29年度内619名） 平成30年度 「古地図展」入館者2,166名 「8年目の3.11～大津波から甦る財たち」入館者728名 ○体験型講座 平成27年度 化石探検講座（55名）、八潮のわら馬講習会（13名）、縄文土器づくり講座（15名）、自然観察会（23名） 平成28年度 化石探検講座（73名）、八潮のわら馬講習会（8名）、勾玉づくり講座（19名） 平成29年度 化石探検講座（36名）、八潮のわら馬講習会（6名）、自然観察会（20名）、縄文土器作り講座（12名） 平成30年度 化石探検講座（116名）、八潮のわら馬講習会（13名）、大珠・勾玉づくり講座（11名）、町内史跡めぐり（23名）</p>
<p>着地型観光の推進 担当課：産業観光課、企画政策課</p> <p>③ 遠賀・中間広域連携プロジェクトによる体験型観光の推進と併せ、釣り体験や鋳物づくりなど芦屋町オリジナルの体験プログラムを創出します。 また、町内を回遊できる仕組みとして、レンタサイクルの複数箇所への設置について検討するとともに、神社仏閣めぐりやマニア向けなど、様々な町歩きツーリズムを推進します。</p>	検討	一部実施	一部実施	一部実施	<p>・まち歩きツーリズム参加者数（累計）360人</p>	<p>まち歩きツーリズム参加者数（累計）115人 H27 0人 H28 29人 H29 57人 H30 29人</p>	<p>・芦屋町独自の体験プログラム創出支援は、観光協会と連携して実施しています。 ・レンタサイクルについては、観光協会が実施しています。（平成20年度～）</p>	B		<p>○芦屋町独自の体験プログラムの創出 平成28年度 2件 平成29年度 9件 平成30年度 11件 ※観光協会が窓口として実施した事業 ○レンタサイクル利用者数 平成27年度 2,283人 平成28年度 2,476人 平成29年度 3,643人 平成30年度 3,069人 ○まち歩きツーリズム参加者数（水辺のくに博覧会参加者数） 平成30年度 29人</p>

<p>イベントの魅力アップ・創出プロジェクト 担当課：産業観光課</p> <p>④ 花火大会や砂像展など既存イベントの充実・魅力向上を図るとともに、町内各事業者や観光資源との連携強化・ネットワーク化を推進します。 また、町民が企画立案するイベントに対する助成として企画提案型イベント助成制度の創設や、ブランド化戦略のひとつとして食をテーマにした新規イベント開催など新たな魅力創出を推進します。</p>	一部実施	一部実施	一部実施	一部実施	<p>・イベントへの年間来場者数 178,000人</p>	<p>イベントへの年間来場者数 H27 169,000人 H28 189,600人 H29 168,200人 H30 180,177人</p>	<p>・町経済への波及効果を高めるため、砂像展やさわらサミット等のイベント開催時には商工会、観光協会と連携して町内事業者の出店を促しています。 ・食をテーマとしたイベントについては、「第3回西日本ご当地さわらサミット2019in芦屋町」を開催しました。 ・企画提案型イベントについて実施の目処が立っていません。</p>	B		<p>○イベントの実施 平成27年度 132,000人 花火大会 85,000人 祭りあしや 5,000人 あしや砂像展 42,000人 航空祭 37,000人 平成28年度 141,100人 花火大会 85,000人 祭りあしや 6,000人 あしや砂像展 41,000人 航空祭 48,500人 第1回さわらサミット9,100人 平成29年度 134,200人 花火大会 80,000人 祭りあしや 7,000人 あしや砂像展 36,000人 第2回さわらサミット 11,200人 航空祭 34,000人 平成30年度 180,177人 花火大会 80,000人 祭りあしや 7,000人 あしや砂像展 44,582人 第3回西日本ご当地さわらサミット2019in芦屋町 10,595人 航空祭 38,000人</p>
<p>ボートレース芦屋・航空自衛隊芦屋基地等との連携 担当課：産業観光課</p> <p>⑤ ボートレース芦屋でのパブリックビューイングや映画上映、音楽イベントの開催、「ASHIMU CAFE（アシムカフェ）」や駐車場を活用したイベントの開催、バックヤードツアーなど体験型メニューの実施について検討を進めます。 航空自衛隊芦屋基地内の見学ツアーや、基地グッズの町内での販売など、芦屋基地と連携した観光資源としての活用について協議を進めます。</p>	一部実施	一部実施	一部実施	一部実施	<p>・連携事業による来場者数（累計） 1,200人</p>	<p>連携事業による来場者数（累計） H27 0人 H28 9,100人 H29 11,200人 H30 10,595人 ※さわらサミット来場者数</p>	<p>・パブリックビューイング等イベント協議、実施について、平成29年度にボートレース芦屋と協議を行った結果、実施していません。 ・競艇場を活用したイベントについては、「第3回西日本ご当地さわらサミット2019in芦屋町」を実施しました。 ・体験プログラムについては、「平成30年度第3回さわらサミット2019in芦屋町」実施時に競艇場艇庫バックヤードツアーを実施しました。 ・自衛隊見学ツアーについては、平成29年度に芦屋基地と協議した結果、基地独自で以前から基地見学を実施しており、そもそも観光施設ではないことなどから、現段階では実施予定はありません。 ・基地グッズ販売協議・調整については、基地と協働でさわらを使ったカレー「琥珀の空」を平成29年度に開発し、様々な物産展等でPR、販売しました。 ・平成30年10月14日に実施された芦屋基地航空祭の際には、砂像展、さわらサミット等町PRのため出店を行いました。</p>	B		<p>○ボートレース芦屋との連携 平成28年度 第1回さわらサミット 平成29年度 第2回さわらサミット ※艇庫バックヤードツアー参加者 約80人（競艇場が実施） 平成30年度 第3回西日本ご当地さわらサミット2019in芦屋町 実施日 平成31年2月23、24日 来場者 10,595人 ※23日に艇庫バックヤードツアーを実施 ○航空自衛隊との連携 平成27年度 航空祭出店 平成28年度 航空祭出店 平成29年度 航空祭出店 さわらカレーの開発・販売 平成30年度 航空祭出店 実施日 平成30年10月14日 内 容 あしや砂像展及びさわらサミットのPR さわらカレー「琥珀の空」の販売</p>
<p>地域おこし協力隊の導入 担当課：企画政策課</p> <p>⑥ 地域おこし協力隊を導入し、今ある魅力の向上やネットワーク化、町中の回遊性を高める仕組みづくり、新たな魅力発見と情報発信を推進します。 また、町内の人と人をつなぐネットワークづくりを推進します。</p>	検討	実施	実施	実施	<p>・地域おこし協力隊員数（累計） 3人</p>	<p>地域おこし協力隊員数（累計） H27 2人（年度毎採用人数） H28 2人（年度毎採用人数） H29 0人（年度毎採用人数） H30 0人（年度毎採用人数）</p>	<p>・平成28年度に隊員2名を採用しスキルや町の資源を活かした体験プログラムやイベントを企画し実行しました。 ・関係団体とは事業推進に向けて、随時調整をしました。 ・平成30年度が最終年度となるため、定着化に向けた方策を検討しました。 ・ネットワークづくりについては、Facebookをはじめ、体験事業の実施により町内事業者との連携などの取り組みで推進しました。 ・新規隊員1名の募集を行いました。採用にいたっていません。</p>	B		<p>・地域おこし協力隊員数（累計） 平成27年度 0人 平成28年度 2人 平成29年度 0人 平成30年度 0人</p>

4 オンラインの芦屋釜を活かした魅力づくり											
No.	実施項目 実施概要	年度				令和元年度目標値 及び備考など	重要業績評価指数 (K P I)	実施状況等 (平成30年度)	目標の達成状況		左記 (実施状況等 (平成30年度)) の根拠
		27	28	29	30				状況	状況が「C」「D」の場合の理由	
①	芦屋釜の里魅力向上プロジェクト 担当課：生涯学習課						芦屋釜の里年間来場者数 H27 16,278人 (有料：14,606人、無料：1,672人) H28 16,609人 (有料：14,855人、無料：1,754人) H29 15,317人 (有料：13,474人、無料：1,843人) H30 18,153人 (有料：15,782人、無料：2,371人)	・芦屋釜の復興の取り組みとして、芦屋釜の復元や芦屋釜に関する周知活動を行いました。表千家同門会第78回全国大会 (令和元年5月8日、9日開催) の会場に選ばれる等、茶道界への周知も進んでいます。 ・庭園活用の取り組みとして、結婚や成人式等の写真の前撮りを受け入れました。今後も需要が見込まれます。 ・鋳物師と連携した体験プログラムの取り組みとして、鋳物師によるワークショップを実施しました。 ・滞留時間増のため、呈茶率の向上等を目指していますが、明らかな成果は出ていません。 ・土産物開発として、工房で小物品 (鋳釜・干支) を製作し、販売を行いました。 ・観光資源としての活用策として、旅行会社からのツアー受入や他のイベント (砂像など) との連携を進めました。	A		○釜の製作実績 平成27年度 吹き：9回 成果品：3点 平成28年度 吹き：7回 成果品：7点 平成29年度 吹き：8回 成果品：2点 平成30年度 吹き：8回 成果品：5点 ○出前講座・講師派遣回数 平成27年度 4回 平成28年度 4回 平成29年度 2回 平成30年度 10回 ○結婚写真前撮り件数 平成27年度 8件 平成28年度 6件 平成29年度 11件 平成30年度 20件 ○体験プログラム実績 ・古印づくりワークショップ 平成27年度 10名 平成28年度 12名 平成29年度 13名 平成30年度 20名 ・水辺のくに博覧会 平成27年度 日本庭園で味わう美味しい抹茶点て教室 (17名) 平成28年度 茶室で味わう抹茶体験 (10名) 平成29年度 和服で楽しむ日本文化 (3名) 平成30年度 抹茶の点て方教室 (12名) ・あしや体験隊 平成29年度 茶せんで抹茶を点てみよう (46名) ○呈茶率 (呈茶数 / 有料入園者) 平成27年度 63.8% 平成28年度 61.7% 平成29年度 63.4% 平成30年度 66.1% ○来場者数 平成27年度 16,278人 (有料：14,606人、無料：1,672人) 平成28年度 16,609人 (有料：14,855人、無料：1,754人) 平成29年度 15,317人 (有料：13,474人、無料：1,843人) 平成30年度 18,153人 (有料 15,782人、無料 2,371人) ・夏休み子ども企画の特典割引 (入園料割引) を実施。 ・砂像展入場者の特典割引 (入園料割引) を実施。 ・新成人の成人の日入園特典割引 (入園料無料) を実施。

達成状況 AA：(当初の計画を前倒しで推進している) A：(計画どおり推進している) B：(一部を除き当初の計画どおり推進している)
C：(全体的に当初の計画から遅れている) D：(ほとんどが未着手である)

5 芦屋港レジャー港化													
No.	実施項目		年度				令和元年度目標値 及び備考など	重要業績評価指数 (K P I)	実施状況等 (平成30年度)	目標の達成状況		左記(実施状況等(平成30年度))の根拠	
	実施概要		27	28	29	30				R1	状況		状況が「C」「D」の場合の理由
①	芦屋港のレジャー港化推進 担当課：芦屋港活性化推進室		実施	実施	実施	実施	R1	・港湾計画の変更年度 31年度	港湾計画の変更年度 31年度	31	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度 県事業により調査検討業務を実施し、将来像及び事業化にむけた課題が示されました。 平成28年度 事業化にむけた県と町の協議 平成29年度 芦屋町による27年度調査結果にある課題を解決し事業の具現化を図る目的で、芦屋町主体による事業推進体制の整備、附属機関「芦屋港活性化推進委員会」の設置、芦屋港活性化推進業務委託によるマーケティング調査等を踏まえた基本計画策定を実施(平成30年度まで)。 平成30年度 平成29年度事業の継続として、芦屋港活性化基本計画の策定における関係機関との協議を実施。令和元年度は港湾計画改訂に向けた県との協議を実施予定。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 活性化のために必要な施設、機能等の検討が平成27年度に県事業として実施された。これを踏まえて、事業具現化のための調査検討(平成29年度～30年度)を芦屋町で実施中。 検討と併せて、法的に必要となる港湾計画改定や県事業として整備するプレジャーボート係留施設に関する協議を継続している。 平成29年度から平成30年度にかけて策定する基本計画をまとめるにあたって、課題を整理し県や国と協議を継続している。 平成30年度は芦屋港推進委員会(5回)、PB専門分科会(1回)、直売分科会(4回)、飲食分科会(4回)、海釣り分科会(4回)での協議やその事前打ち合わせ、県や国との協議を実施している。 令和元年度は港湾計画改訂に向け、県と協議を実施する予定。
	港の管理者である福岡県と協議しながら、レジャー港としての有効かつ必要な機能への転換を推進します。 構想づくりでは、現在の物流機能ではなく、観光の町としてふさわしいマリーナ機能としてのプレジャーボートの係留施設や海釣り公園機能としての棧橋や生けす施設、観光客と地元住民との交流機能として、新鮮な鮮魚などを販売する直売所施設やその場で調理し提供できる飲食施設、イベント機能として朝市や祭りなどができる施設、マリンスポーツやビーチスポーツ大会時の駐車場施設など、北部九州地域における広域レジャーの拠点となるような整備方針が必要です。さらに、芦屋港周辺には、海水浴場やレジャーブル、海浜公園、国民宿舎、砂像展、ビーチサッカー大会など注目されている施設やイベントが多くあり、それらと連携したにぎわい空間の創出ができるような機能への展開を推進します。												

6 芦屋流移住・定住の推進												
No.	実施項目		年度				令和元年度目標値 及び備考など	重要業績評価指数 (K P I)	実施状況等 (平成30年度)	目標の達成状況		左記(実施状況等(平成30年度))の根拠
	実施概要		27	28	29	30				R1	状況	
①	移住・定住促進プロジェクト 担当課：環境住宅課、企画政策課		一部 実施	一部 実施	一部 実施	一部 実施	R1	<ul style="list-style-type: none"> 移住・定住者(定住促進奨励金等助成事業活用件数の累計) 60世帯 	<ul style="list-style-type: none"> 移住・定住者(定住促進奨励金等助成事業活用件数の累計) H27(累計) 46世帯 H28(累計) 81世帯 H29(累計) 128世帯 H30(累計) 161世帯 	<ul style="list-style-type: none"> 【環境住宅課】 ・移住定住施策について現状では定住施策に重点をおくこととし、定住促進奨励金を交付しています。 ・移住・定住促進の相談会に参加し、定住支援制度の紹介、対面相談を行いました。 【企画政策課】 ・新たな定住支援策として、令和元年度の地方創生推進交付金(移住・起業・就業タイプ)を活用した事業実施に向け、検討を行いました。 ・マッチングコーディネーター、お試し居住制度等、制度創設にいたっていません。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○移住・定住者(定住促進奨励金等助成事業活用件数の累計) 190世帯 平成26年度(累計) 29世帯 平成27年度(累計) 46世帯 平成28年度(累計) 35世帯 平成29年度(累計) 47世帯 平成30年度(累計) 33世帯 住宅係：B 地方創生推進係：B
	移住・定住のための効果的な情報発信を推進するとともに、移住希望者とのマッチングや町内の受入機運・環境の整備、定住後のフォローアップ体制について、調査・研究を行います。 また、観光戦略と連携したお試し居住制度を創設し、芦屋町の魅力発見や住みやすさのPRを推進します。 定住促進奨励金制度の推進を図るとともに、既存制度の拡充や新たな定住支援策について検討を進めます。											
②	空家有効活用プロジェクト 担当課：環境住宅課、企画政策課		一部 実施	一部 実施	一部 実施	一部 実施	R1	<ul style="list-style-type: none"> 空家家の有効活用件数(累計) 50件 	<ul style="list-style-type: none"> 空家家の有効活用件数(累計) H27 0件 H28 7件 H29 5件 H30 3件 中古住宅解体後の新築住宅建築補助金 12件 H27 1件 900千円 H28 3件 2,700千円 H29 6件 4,745千円 H30 2件 1,788千円 	<ul style="list-style-type: none"> 【環境住宅課】 ・空家バンク登録後の契約済物件が徐々に増えており、売買・賃貸等が活性化しています。 ・中古住宅解体後の新築住宅建築補助金は、年度設定(予算化)している2件分の申請が行われ引き続き、空家対策や定住促進として推進されています。 【企画政策課】 ・賃貸住宅リノベーション助成制度については、制度創設にいたっていません。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 【環境住宅課】 ○空家バンク登録件数 15件(内8件契約済) 芦屋町HP掲載 ○中古住宅解体後の新築住宅建築補助金 平成27年度 1件 900千円 平成27年度 3件 2,700千円 平成27年度 6件 4,745千円 平成30年度 2件 1,788千円 【企画政策課】 ・賃貸住宅リノベーション助成について実施できる見込みがない。 住宅係：B 地方創生推進係：D
	老朽化した賃貸住宅などを居住者ニーズにあったリニューアルやリノベーションした場合に対する助成制度の創設を検討します。 また、町営住宅(所得制限外住宅)のリノベーションと家賃の適正化について検討します。 空家バンク制度創設により、積極的な情報発信や空家の有効活用を推進します。また、中古住宅解体後の新築住宅建築補助金制度を推進します。											

II 芦屋ならではのしごとづくりを進める
1 海を活かした観光型ビジネスの創出

No.	実施項目 実施概要	年度				令和元年度目標値 及び備考など	重要業績評価指数 (K P I)	実施状況等（平成30年度）	目標の達成状況		左記（実施状況等（平成30年度））の根拠
		27	28	29	30				R1	状況	
①	海が見える・海を活かしたショップの起業・誘致 担当課：産業観光課	一部 実施	一部 実施	一部 実施	一部 実施	・海岸線や海を望む立 地に出店したショップ の数（累計） 3件	海岸線や海を望む立地に出 店したショップの数（累 計） 3件 店舗誘致については、創 業促進支援事業補助金等の 周知・活用により、海に面 した立地の事業所が3つ起業 した。 H27 1件 アートホーム H28 1件 パルナチュレ H29 1件 チャレンジ ショップ H30 0件	・芦屋町創業促進支援事業補助金及び空き店舗等活用事業補助金を活用し、店舗（青果店）が1 件オープンしました。 ・遊休地の有効活用については、海岸線の活用可能遊休地の把握ができていません。 ・平成29年度に募集したチャレンジショップ（HASAMIYA）については、2年が経過し、期間満了 となったが町内での起業には結びつきませんでした。 ・スポーツ、マリレジャー関係の店舗誘致実績はありませんでした。	A	○各種補助金交付状況 ・創業促進支援事業補助金 平成27年度 4件 平成28年度 4件 平成29年度 3件 平成30年度 1件（やさいひろば） ・空き店舗等活用事業補助金 平成27年度 2件 平成28年度 4件 平成29年度 5件 平成30年度 1件（やさいひろば） ○海岸線や海を望む立地に出店したショップ数 平成29年度 1件（チャレンジショップ） 平成30年度 0件 ※スポーツ、マリレジャー関係の誘致方法がわからない。	
②	水産物を活かしたビジネスの創出 担当課：産業観光課	検討	検討	検討	検討	・水産物販売創業企業 数（累計） 3件	水産物販売創業企業数（累 計）0件 H27 0件 H28 0件 H29 0件 H30 0件	販路拡大、加工品開発等による雇用の拡大、ビジネスチャンスの創出について遠賀漁業協同組 合と協議を行っているが水産物販売企業の創業にいたっていません。	C	遠賀漁業協同組合と協 議を行っていますが、 全体的に当初の予定か ら遅れています。 ○水産物販売創業企業数 平成27年度 0件 平成28年度 0件 平成29年度 0件 平成30年度 0件	

2 芦屋ならではの起業の支援											
No.	実施項目 実施概要	年度				令和元年度目標値 及び備考など	重要業績評価指数 (K P I)	実施状況等（平成30年度）	目標の達成状況		左記（実施状況等（平成30年度））の根拠
		27	28	29	30				R1	状況	
①	IT・クリエイターの起業・誘致 担当課：産業観光課					・起業件数（累計） 8件	起業件数（累計）0件 H27 0件 H28 0件 H29 0件 H30 0件	・IT・クリエイターの起業実績はありません。 ※起業支援や誘致の企画立案、実施については、IT・クリエイターを、情報通信業、芸術家と定義し、新たに芦屋町創業促進支援事業補助金の交付対象に加えることとしました。（平成30年4月施行）	C	（前回：B） IT・クリエイターを新たに芦屋町創業支援事業補助金の交付対象に加えたため。	○各種補助金交付状況 ・創業促進支援事業補助金 平成27年度 4件 平成28年度 4件 平成29年度 3件 ・空き店舗等活用事業補助金 平成27年度 2件 平成28年度 4件 平成29年度 5件 ○IT・クリエイターの起業件数 平成30年度 0件
	個人でも起業できるIT関連やデザイナー・ライターなどクリエイターの起業支援や誘致を推進します。	一部実施	一部実施	一部実施	一部実施						
②	サテライトオフィス誘致 担当課：産業観光課、企画政策課					・サテライトオフィス誘致数（累計） 3件	サテライトオフィス誘致数（累計）0件 H27 0件 H28 0件 H29 0件 H30 0件	【企画政策課】 ・北九州市との連携中核都市圏構想に掲げていますが、実施にいたっていません。	D	サテライトオフィスについて活用できる施設及びニーズについても不明です。	○サテライトオフィス誘致件数 平成30年度 0件
	活用できる施設の把握に努めるとともに、都市部にある企業のサテライトオフィス誘致を図ります。	検討	検討	検討	検討						
③	空き店舗・空家を活かした起業・誘致 担当課：産業観光課					・空き店舗等活用件数（累計） 9件	空き店舗等活用事業補助金（累計）6件 H27 1件 H28 2件 H29 2件 H30 1件	・平成26年度構築した2つの補助金（芦屋町創業促進支援事業補助金、芦屋町空き店舗等活用事業補助金）について、平成30年度についてもPRし、活用が図られました。 【芦屋町空き店舗等活用事業補助金】 平成26年度 交付要綱制定 申請 1件（新規） 平成27年度 申請 1件（新規） 平成28年度 申請 2件（新規） 平成29年度 申請 2件（新規） 平成30年度 申請 1件（新規） ※平成29年度に補助対象エリアを全域にするとともに、空き家についても対象としました。 【芦屋町創業促進支援事業補助金】 平成26年度 交付要綱制定 申請 0件（新規） 平成27年度 申請 4件（新規） 平成28年度 申請 4件（新規） 平成29年度 申請 3件（新規） 平成30年度 申請 1件（新規） ※補助対象エリアを全域にするとともに、空き家についても対象としました。（平成30年4月施行） IT・クリエイターを、情報通信業、芸術家と定義し、補助対象としました。（平成30年4月施行）	B		○空き店舗等活用事業補助金（累計） 平成27年度 2件（新規1件） 平成28年度 4件（新規2件） 平成29年度 5件（新規2件） 平成30年度 6件（新規1件） やさいひろば ○芦屋町創業促進支援事業補助金 平成30年度 1件（新規1件） やさいひろば
	空き店舗や空きビル、賃貸住宅や空家の実態を把握するとともに、それぞれの環境に応じたリニューアルを支援することで、効果的な活用を図ります。	検討	検討	検討	一部実施	一部実施					

達成状況 AA：(当初の計画を前倒しで推進している) A：(計画どおり推進している) B：(一部を除き当初の計画どおり推進している)

C：(全体的に当初の計画から遅れている) D：(ほとんどが未着手である)

3活力ある事業所づくり											
No.	実施項目 実施概要	年度				令和元年度目標値 及び備考など	重要業績評価指数 (KPI)	実施状況等 (平成30年度)	目標の達成状況		左記 (実施状況等 (平成30年度)) の根拠
		27	28	29	30				R1	状況	
①	プレミアム商品券の発行 担当課：産業観光課	実施	実施	実施	実施	R1	年間発行総額 H27 180,000,000円 H28 77,000,000円 H29 77,000,000円 H30 77,000,000円 年間発行総額 77,000,000円 ・プレミアム付商品券 年間発行総額 77,000,000円 ※H27は、地方創生加速化交付金の交付により、補助額を増額しています。(10%⇒20%)	・平成27年度から継続して支援しています。	A		○年間発行総額 平成27年度 180,000,000円 平成28年度 77,000,000円 平成29年度 77,000,000円 平成30年度 77,000,000円 ※H27は、地方創生加速化交付金の交付により、補助額を増額しています。(10%⇒20%) ○プレミアム付商品券発行事業補助額 平成27年度 30,333,200円 平成28年度 3,500,000円 平成29年度 3,500,000円 平成30年度 3,500,000円 (戻入 5,909円 差し引き 3,494,091円) ※戻入については、未使用分返還に伴うもの ※平成27年度は、地方創生加速化交付金の交付により、補助額を増額している。 (10%⇒20%) ●芦屋マル徳通貨30% (町内者限定)
②	町内事業者への支援拡充 担当課：産業観光課	検討	検討	一部実施	一部実施		・支援制度年間新規申請件数 25件 支援制度年間新規申請件数 H27 9件 H28 8件 H29 20件 H30 19件 ※H29.4月から新制度で運用を開始しています。	・現状の制度融資を平成29年度に見直したため、既存の町内事業者に対する雇用拡大につながる投資への新たな支援策制度化については、実施する予定はありません。 ・制度融資の見直しを行い、利子補給制度から信用保証料補助制度へ変更しました。(平成29年度)	B		○制度融資新規利用者数 平成27年度 9件 平成28年度 8件 平成29年度 20件 平成30年度 19件 ※平成29年4月から新制度で運用を開始しているため、利子補給の新規についてはありません。
③	雇用の確保対策 担当課：産業観光課	一部実施	一部実施	一部実施	一部実施		・新規雇用者数 (累計) 30人 新規雇用件数 (累計) 34人 (創業促進支援事業補助金の新規雇用予定人数) H27 5人 H28 9人 H29 14人 H30 6人	・平成26年度から実施している芦屋町空き店舗等活用事業補助金及び芦屋町創業促進支援事業補助金による起業に伴い、新規雇用者数は増加傾向にあります。	A		○新規雇用件数 (累計) 34人 (創業促進支援事業補助金の新規雇用予定人数) 平成27年度 5人 平成28年度 9人 平成29年度 14人 平成30年度 6人 (やさいひろば5人、中寫屋1人)

達成状況 AA：(当初の計画を前倒しで推進している) A：(計画どおり推進している) B：(一部を除き当初の計画どおり推進している)
C：(全体的に当初の計画から遅れている) D：(ほとんどが未着手である)

4 地産地消の推進												
No.	実施項目		年度				令和元年度目標値 及び備考など	重要業績評価指数 (K P I)	実施状況等 (平成30年度)	目標の達成状況		左記 (実施状況等 (平成30年度)) の根拠
	実施概要		27	28	29	30				R1	状況	
①	芦屋製品の消費拡大推進 担当課：産業観光課		一部 実施	一部 実施	一部 実施	一部 実施	・芦屋製品提供 店舗数 (累計) 25店舗	芦屋製品提供店舗数 (累 計) 39店舗 ※さくらフェア参加店舗数 H27 0店舗 H28 12店舗 H29 18店舗 H30 9店舗	・さくらサミット開催後に実施したさくらフェア等で芦屋製品を町内で食事ができるよう働き かけを行いました。 ・観光あしや協議会により、特産品ブランド認定制度の構築に向けた協議を行いました。(令 和元年度に制度構築) ・芦屋製品 (加工品) の町内での販路開拓については、現状把握及び具体的な手段を調査・検 証を行っています。(継続中)	B		○さくらフェア参加店舗数 平成28年度 12店舗 平成29年度 18店舗 平成30年度 9店舗 延販売食数 179食 ○観光あしや協議会 平成28年度 再構築に向けた協議 3回 平成29年度 発足会 1回 平成30年度 全体回 4回、実行部会 4回、観光基本構想評価部会 2回
	芦屋製品を町内で販売できる仕組み (空き店舗の活用等) や、芦 屋製品で食事ができる場の仕組みづくりを推進します。 また、付加価値を高めブランド化を図る新たな取り組みや、販路 拡大の取り組みなどを関係機関と連携し推進します。											
②	農商工等連携事業の推進 担当課：産業観光課		検討	一部 実施	一部 実施	一部 実施	・農商工等連携 事業数 (累計) 5件	農商工等連携事業数 (累 計) 10件 H27 0件 H28 3件 H29 3件 H30 4件	・商工会の特産品開発プロジェクトに対する支援を行い、連携して平成29年度に開発したさわ らカレー「琥珀の空」やさわらの味噌漬けなどのPR、販売を県内・外で実施しました。 ・商工会の特産品開発プロジェクトにて新たに、さくらめんつゆ、物かたり、釜ろん、開運甘 酒を開発しました。	A		○特産品開発プロジェクト補助額/特産品開発状況 平成28年度 500,000円/さくら味噌漬け 平成29年度 400,000円/さくらカレー、おやき、さくらフレーク、さくらスープ等 平成30年度 400,000円/さくらめんつゆ、物かたり、釜ろん、開運甘酒 ○農商工等連携事業数 平成30年度 4件
	農林水産業と商業・工業等が産業間の壁を越えて連携し、新商品 の開発や販路開拓等を支援する国の制度で、町内では、農業と製造 業の一部で連携ができていますが、今後水産業との連携や連携事業 者の拡充を図ります。											
③	直売所等の整備推進 担当課：産業観光課		検討	検討	検討	検討	・直売所の整備年度 平成31年度	直売所等の整備推進 整備年度未定です。	整備年度未定です。	D	検討が進んでいないた め、整備年度は未定で す。	
	芦屋製品の直売機能をはじめ、地産地消の推進や観光情報の拠点 としての機能、地域住民の生活機能向上のための小さな拠点機能等 を併せもつ、直売所等の整備について検討します。											

達成状況 AA：(当初の計画を前倒しで推進している) A：(計画どおり推進している) B：(一部を除き当初の計画どおり推進している)

C：(全体的に当初の計画から遅れている) D：(ほとんどが未着手である)

Ⅲ 若い世代が安心して結婚・出産・子育てができる環境をつくる
1 結婚・出産の希望実現

No.	実施項目 実施概要	年度				令和元年度目標値 及び備考など	重要業績評価指数 (K P I)	実施状況等 (平成30年度)	目標の達成状況		左記 (実施状況等 (平成30年度)) の根拠
		27	28	29	30				状況	状況が「C」「D」の場合の理由	
①	<p>出会いの場の創出 担当課：健康・こども課</p> <p>婚活セミナーやイベント開催、同窓会開催などを支援し、出会いの場を創出します。また、民間団体や航空自衛隊芦屋基地等との連携による若者の出会いの場づくりを推進します。</p>	一部実施	検討	一部実施	一部実施	<p>・支援事業件数 (累計) 20件</p>	<p>支援事業件数 (累計) 4件 H27 2件 H28 0件 H29 1件 H30 1件</p>	<p>・平成30年度に婚活イベントを1回開催し、男性18人、女性16人の参加があり、4組のカップルが成立しました。</p>	C	<p>・町単独でのより良い実施方法を模索しており、自衛隊や企業等との連携は検討中です。</p>	<p>○支援事業件数 (累計4件) 平成27年度 2件 平成28年度 0件 平成29年度 1件 平成30年度 1件</p>
②	<p>妊娠期から出産までの支援充実 担当課：健康・こども課</p> <p>妊娠から出産までの相談や支援をワンストップ化するとともに、不妊治療に対する助成制度の創設について検討を進めます。また、出産祝金制度を推進します。</p>	実施	実施	実施	実施	<p>・合計特殊出生率 1.72</p>	<p>合計特殊出生率 H26 1.85 H27 1.60 H28 2.03</p>	<p>・子育て世代包括支援センターを平成28年度 (平成29年3月) に健康・こども課内に開設し、それまでも行ってきた妊娠・出産・育児に関する相談を、継続・充実して実施しています。 ・不妊治療費助成事業は、平成28年度 (7月) から事業を開始しています。 ・H27年度から出産祝金交付を行っています。</p>	A	<p>○母子手帳交付時保健指導 平成27年度：130人 平成28年度：119人 平成29年度：109人 平成30年度：90人</p> <p>○妊婦への電話での保健指導 平成27年度：延べ113件 平成28年度：延べ129件 平成29年度：延べ99件 平成30年度：延べ99件</p> <p>○支援プラン立案等要支援妊産婦 (平成28年度開始) 平成28年度：1人 平成29年度：8人 平成30年度：4人</p> <p>○不妊治療費助成事業 (平成28年度開始) 平成28年度：2件 平成29年度：2件 平成30年度：7件</p> <p>○出産祝金交付 平成27年度：46件・5,200千円 平成28年度：75件・9,150千円 平成29年度：67件・8,550千円 平成30年度：62件、7,250千円</p>	
③	<p>新婚・子育て世帯民間賃貸住宅家賃補助制度の推進 担当課：環境住宅課</p> <p>新婚世帯や子育て世帯の移住や定着を図る目的の「新婚・子育て世帯民間賃貸住宅家賃補助制度」を推進します。</p>	実施	実施	実施	実施	<p>・年間補助金交付件数 30件</p>	<p>年間補助金交付件数 H27 23件 (新婚世帯18件、子育て世帯5件) H28 42件 (新婚世帯35件、子育て世帯7件) H29 64件 (新婚世帯43件、子育て世帯21件) H30 53件 (新婚世帯32件、子育て世帯21件)</p>	<p>・新婚世帯民間賃貸住宅家賃補助金及び子育て世帯民間賃貸住宅家賃補助金を交付しています。</p>	A	<p>○新婚世帯民間賃貸住宅家賃補助金 平成27年度：18件・2,360千円 平成28年度：35件・6,808千円 平成29年度：43件・11,114千円 平成30年度：32件・5,904千円</p> <p>○子育て世帯民間賃貸住宅家賃補助金 平成27年度：5件・260千円 平成28年度：7件・1,180千円 平成29年度：21件・3,920千円 平成30年度：21件・4,773千円</p>	

2 芦屋の子は芦屋で育てる環境づくり												
No.	実施項目		年度				令和元年度目標値 及び備考など	重要業績評価指数 (K P I)	実施状況等 (平成30年度)	目標の達成状況		左記 (実施状況等 (平成30年度)) の根拠
	実施概要		27	28	29	30				R1	状況	
①	さわやかプロジェクトの推進 担当課：学校教育課		実施	実施	実施	実施	・教育の充実に関する 住民満足度の構成比率 67.0%	教育の充実に関する住民満足度の構成比率 H29 64.8% ※コミュニティ状況調査 実施時以外は不明。	・芦屋町就学支援委員会を開催 ・特別支援教育の充実 (特別支援連携協議会の実施、教育相談の実施) ・不登校対策指導員の配置 ・小中一貫教育推進講師の配置	A		○就学支援委員会の開催 年3回 ○特別支援連携協議会の開催 年2回 ○教育相談の実施 年1回 ○不登校対策指導員の配置 1名 ○小中一貫教育推進講師の配置 平成27・28年度5名 平成29年度6名 (※うち2名は、2名で1名分 (実質5名)) 平成30年度4名 ※ただし、平成30年度より小中一貫教育推進講師については1校に1名の方針
	「芦屋の子は芦屋で育てる」をキーワードに、学校・家庭・地域が連携するとともに、幼稚園・保育所 (園) ・小学校・中学校の連携による一貫した教育を推進することで、豊かな心の育成と学力の向上、体力の向上を推進します。また、不登校対策指導員やスクールカウンセラーなどによるきめ細やかな指導と、特別支援教育の充実を推進します。											

3 いきいき子育て支援												
No.	実施項目		年度				令和元年度目標値 及び備考など	重要業績評価指数 (K P I)	実施状況等 (平成30年度)	目標の達成状況		左記 (実施状況等 (平成30年度)) の根拠
	実施概要		27	28	29	30				R1	状況	
①	多様な子育て支援サービスの充実と総合的な展開 担当課：健康・こども課		一部 実施	実施	実施	実施	・子育て支援センター 年間利用者数 9,400人	子育て支援センター年間利用者数 H27 8,377人 H28 9,006人 H29 9,011人 H30 9,023人	・子育て支援センター「たんぼぼ」を、民間団体である指定管理者により運営しています。 ・子育て世代包括支援センターとして子育て支援部門と母子保健部門が連携を図っており、子育て支援に関する相談対応や情報提供を行っています。	B		○子育て支援センター延べ利用者数 平成27年度：8,377人 平成28年度：9,006人 平成29年度：9,011人 平成30年度：9,023人
	子育て支援センター「たんぼぼ」の機能充実を図り、さらに利用しやすい環境づくりを推進します。また、子育て支援に関する相談や情報提供、多様な子育て支援サービスの提供など、子ども子育てのワンストップサービスを提供します。											
②	保育サービスの向上 担当課：健康・こども課		実施	実施	実施	実施	・一時保育年間延べ利 用者数 520人	一時保育年間延べ利用者数 H27 561人 H28 476人 H29 733人 H30 306人	・保育所保育料について、国の定める基準よりも所得階層を細分化し、保育料を軽減しています。 ・芦屋保育園において一時保育事業を行っています。また、幼稚園においても一時保育事業を行っています。 ・障がい児保育のための保育士加配に対し、町単独で補助金を交付しています。 ・病児、病後児保育事業として、遠賀郡中間市共同で、遠賀中間医師会遠賀病院「ぞうさんルーム」を開設しています。 ・学童保育の開設時間を平成30年度から18:30までに引き延ばしました。 ・九州女子短大のキャラバン隊による保育の時間に保育所及び幼稚園3園で各1回ずつ実施しました。	A		○保育料軽減額 (国基準額-町基準額) 平成27年度：23,155,550円 平成28年度：21,667,000円 平成29年度：23,070,250円 平成30年度：19,133,510円 ○一時保育事業 (保育所) 利用者数 (延人数) 平成27年度：561人 平成28年度：476人 平成29年度：733人 平成30年度：306人 ○障がい児保育事業補助金 平成27年度：該当あり 平成28年度：該当なし 平成29年度：該当あり 平成30年度：該当あり ○病児病後児保育 (登録人数) 平成27年度利用者数：29人 平成28年度利用者数：33人 平成29年度利用者数：34人 平成30年度利用者数：37人
	保育料の軽減や一時保育、障がい児保育など保育サービスの充実を図るとともに、病児・病後児保育の整備を検討します。また、大学との連携による保育サービスの充実や学童保育の充実に取り組みます。											

2 みんなでつくるあしや・協働のまちづくり

No.	実施項目		年度				令和元年度目標値 及び備考など	重要業績評価指数 (K P I)	実施状況等 (平成30年度)	目標の達成状況		左記 (実施状況等 (平成30年度)) の根拠
	実施概要		27	28	29	30				R1	状況	
①	協働のまちづくりの推進 担当課：企画政策課、環境住宅課、生涯学習課							① 自治体担当職員制度による自治体まちづくり計画策定 自治体数 (累計) 0区 H27 0区 H28 0区 H29 0区 H30 0区	【環境住宅課】 ・自治体担当職員制度においてステップ1 (職員がボランティア活動を行うことで、住民と顔見知りになる。)、ステップ2 (職員が自治体に出向き、意見交換等を行い、実態について理解する。) 及びステップ3 (将来的な地域のあり方の検討、計画の策定) を実施しました。 ・5年間の担当制の活動内容を元に、大幅な制度改正の検討を始めました。 【企画政策課】 ・住民参画まちづくり条例の発展的見直し及び住民参画のまちづくりについて調査・審議するため、住民参画推進会議を開催しました。 ・住民の皆さんにまちづくりに対する関心を深めてもらうため、町が持つ情報の提供及び住民の皆さんからの意見の収集に努めました。 【生涯学習課】 ・子どもたちのボランティア活動 研修会や実践活動を通じてボランティア活動について学習している。平成30年度は介護施設訪問、イベント支援のほか、被災地支援として祭りあしやで朝倉地域の農産物を販売しました。 ・ネットワークづくりの支援 ① 団体交流を目的とした懇親会の実施 (平成27年度) ② ワールドカフェ方式の意見交換会の実施 (平成28年度～) ・広報紙 (毎月発行) や主催事業でのパネル展示で活動の周知に努め、町民にボランティア活動を広め、触れる機会を提供しました。 ・活動団体紹介冊子を作成し、ボランティア団体の情報発信を行うこととしていたが、冊子の完成にはいたらなかった。	B	【環境住宅課】 ○自治体担当職員制度の実施状況 平成27年度 31件 164人 平成28年度 27件 85人 平成29年度 30件 104人 (ステップ1) 27件 113人 (ステップ2) 平成30年度 50件 92人 (ステップ1) 20件 56人 (ステップ2) 8件 43人 (ステップ3) 【企画政策課】 ○住民参画推進会議の開催数 平成27年度 3回 平成28年度 1回 平成29年度 1回 平成30年度 2回 ○パブリックコメント実施件数 平成27年度 4回 (提出状況：30件・13人) 平成28年度 4回 (提出状況：12件・2人) 平成29年度 5回 (提出状況：30件・10人) 平成30年度 6回 (提出状況：11件・7人) 【生涯学習課】 ○ボランティア活動センター利用者数 (延べ人数) 平成27年度 6,372人 平成28年度 5,970人 平成29年度 6,098人 平成30年度 5,733人 地域振興・交通係：B 企画係：B 社会教育係：B	
	住民参画まちづくり条例の推進による協働のまちづくりを実現するため、自治体担当職員制度の推進による地域コミュニティの醸成や自治体のまちづくり計画策定など、地域コミュニティの核となる自治体の活性化を推進します。 また、ボランティア活動センターの機能向上を図ります。		一部実施	一部実施	一部実施	一部実施	・自治体担当職員制度による自治体まちづくり計画策定自治体数 (累計) 30区					

<p>シビックプライドの醸成 担当課：企画政策課、生涯学習課、学校教育課</p> <p>② 芦屋町の歴史や伝統文化、産業、自然など様々な魅力を町民が知り、誇りに思うとともに、郷土心を醸成し、地域への愛着と定着を図るため、「芦屋かるた」、「あしや検定」、「一人ひとつ自慢」などの取り組みや、町民むけ情報発信、町民むけ体験プログラムなど様々な取り組みを推進します。</p>	一部実施	一部実施	一部実施	一部実施	<p>・シビックプライド醸成の取り組み事業件数(累計) 20件</p>	<p>シビックプライド醸成の取り組み事業件数(累計) 112件 H27 22件 広報あしや1件、体験プログラム0件、出前講座14件、佐野市青少年1件、佐野市文化交流1件、公民館講座2件、芦屋釜の里見学1件、あしや砂像展訪問1件、祇園崎魚道公園での環境学習1件 H28 22件 広報あしや1件、体験プログラム3件、出前講座11件、佐野市青少年1件、佐野市文化交流1件、公民館講座2件、芦屋釜の里見学1件、あしや砂像展訪問1件、祇園崎魚道公園での環境学習1件 H29 34件 広報あしや1件、体験プログラム4件、出前講座22件、佐野市青少年1件、佐野市文化交流1件、公民館講座2件、芦屋釜の里見学1件、あしや砂像展訪問1件、祇園崎魚道公園での環境学習1件 H30 34件 広報あしや1件、体験プログラム5件、出前講座21件、佐野市青少年1件、佐野市文化交流1件、公民館講座2件、芦屋釜の里見学1件、あしや砂像展訪問1件、祇園崎魚道公園での環境学習1件</p>	<p>【企画政策課】 ・町民向け情報発信の仕組みづくりについては、調査研究業務委託の結果をもとに進めています。 ・遠賀中間地域広域連携プロジェクトによる「水辺のくに博覧会」や、芦屋町独自の体験プログラム「あしや体験隊」を実施しています。 ・住民の学習機会を増やすことで住民の町政に関する理解を深め、住民参画によるまちづくりの推進に寄与することを目的とした、「出前講座」を実施しています。</p> <p>【生涯学習課】 ・全国的な茶釜の産地として共通の文化を持つ、栃木県佐野市と「佐野市青少年交流事業」を実施しました。 ・年11回開催する「中央公民館講座」において、芦屋町の歴史や産業にふれる講座を実施しました。 ・親善都市である栃木県佐野市と「文化交流事業」を実施することで、両市町の郷土文化に対する理解を深め、歴史・文化活動、鎗物、茶道文化等の活性化を図ることを目的に、成人を対象に相互訪問を行い、鎗物や茶道関係を軸とした交流を行います。</p> <p>【学校教育課】 ・「芦屋釜の里訪問(芦屋釜の学習)」、「あしや砂像展訪問」、「祇園崎魚道公園での環境学習」(東小学校のみ)を実施しました。</p>	B	<p>【企画政策課】 ○情報発信件数(広報あしや) 平成27年度 12件、平成28年度 24件、平成29年度 36件、平成30年度 48件 ○シビックプライド醸成の取り組み事業件数 ・体験プログラム実施回数 平成27年度 0件、平成28年度 3件、平成29年度 4件、平成30年度 5件 ・出前講座実施件数 平成27年度 14件、平成28年度 11件、平成29年度 22件、平成30年度 21件</p> <p>【生涯学習課】 ○佐野市青少年交流事業参加者数(研修生) 平成27年度(芦屋町実施) 参加者：芦屋町14名、佐野市19名 平成28年度(佐野市実施) 参加者：芦屋町18名、佐野市24名 平成29年度(芦屋町実施) 参加者：芦屋町17名、佐野市20名 ※台風のため本研修中止 平成30年度(佐野市実施) 参加者：芦屋町10名、佐野市15名 ○佐野市文化交流事業 平成27年度 芦屋町訪問団6名(うち事務局2名) 芦屋町から釜を寄贈 平成28年度 佐野市訪問団11名(うち事務局3名)※佐野市長来町 佐野市から佐野人形を受贈 平成29年度 芦屋町訪問団8名(うち事務局2名)※副町長訪問 平成30年度 佐野市訪問団10名(うち事務局2名)</p> <p>○公民館講座 平成27年度 「芦屋再発見講座」芦屋基地見学(25名) 「芦屋再発見講座Ⅱ」芦屋役者と歌舞伎について(20名) 平成28年度 「芦屋基地を見て回ろう」(20名) 「遊びから学ぶ芦屋の歴史」芦屋かるたについて(32名) 平成29年度 「芦屋基地を見て回ろう」(24名) 「遊びから学ぶ芦屋の歴史Ⅱ」芦屋かるたについて(25名) 平成30年度 「芦屋基地を見て回ろう」(22名) 「芦屋釜を本気で知ろう!」(51名)</p> <p>【学校教育課】 ○芦屋釜の里訪問 芦屋小学校;27年度:3~6年生(計4クラス)、28年度:3~6年生(計4クラス)、29年度:3~6年生(計4クラス)、30年度:3~6年生(計5クラス) 芦屋東小学校;27年度:3~6年生(計4クラス)、28年度:3~6年生(計4クラス)、29年度:3~6年生(計4クラス)、30年度:3~6年生(計5クラス) 山鹿小学校;27年度:3~6年生(計8クラス)、28年度:3~6年生(計8クラス)、29年度:3~6年生(計8クラス)、30年度:3~6年生(計8クラス) 芦屋中学校;27年度:1~3年生(計13クラス)、28年度:1~3年生(計12クラス)、29年度:1~3年生(11クラス)、30年度:1~3年生(計11クラス) ・あしや砂像展訪問 芦屋小学校;27年度:なし、28年度:なし、29年度:1~6年生(計7クラス)、30年度:1~6年生(計7クラス) 芦屋東小学校;27年度:なし、28年度:なし、29年度:2,3年生(計3クラス)、30年度:3,4年生(計3クラス) 山鹿小学校;27年度:なし、28年度:なし、29年度:1~6年生(計12クラス)、30年度:1~6年生(計12クラス) 芦屋中学校;27~29年度:なし、30年度:1~3年生(計11クラス) ・魚道公園での環境学習 芦屋東小学校;27年度:4年生(1クラス)、28年度:4年生(1クラス)、29年度:4年生(1クラス)、30年度:4年生(1クラス)</p>
--	------	------	------	------	-------------------------------------	---	---	---	---

<p>高齢者が生き生きと生活できる環境づくり 担当課：福祉課</p> <p>③ 高齢者が地域で安心して暮らせるよう、地域包括ケアシステムを構築するとともに、介護予防の一環として、身近な地域で交流や相談ができる仕組みづくりとして、すべての自治区で、サロン事業を推進します。</p>	実施	実施	実施	実施	<p>・サロン事業年間実施箇所数 30箇所</p>	<p>サロン事業年間実施箇所数 H27 5箇所 H28 11箇所 H29 18箇所 H30 20箇所</p>	<p>(地域交流サロン事業) ・平成27、28年度はモデル事業として実施し、平成29年度から本格実施しています。</p> <p>(地域包括ケアシステムの構築) ・平成27年4月に設置された遠賀郡4町及び中間市、遠賀中間医師会その他、在宅医療と介護の関係機関からなる遠賀中間地域在宅医療介護連携推進協議会に参画し、国が示す事業について協議し実施しています。 ・高齢者等の生活上の困り事を解決するため、社会福祉協議会と連携し、住民主体の生活支援体制整備の構築をすすめ、平成30年3月に住民による「あしや助けあい・支えあいの会」が発足しています。平成30年9月からサポート活動を開始し、会の運営支援や必要な助言を行いました。 ・認知症の人や認知症が疑われる人を早期に支援へ繋げるため、認知症地域支援推進員による支援や、認知症初期集中支援チームによる対応を行っています。 ・地域ケア会議を開催し、困難事例の解消や介護従事者の資質向上を図っています。 ・夜間や緊急時にも在宅で医療と介護が一体的に提供される定期巡回・随時対応型訪問介護看護を整備しました。</p>	B		<p>【地域交流サロン事業】 ○地域交流サロン実施自治区数 平成27年度 5地区 平成28年度 11地区 平成29年度 18地区 平成30年度 20地区</p> <p>【地域包括ケアシステムの構築】 ○在宅医療・介護連携推進事業 (ア) 地域の医療・介護の資源の把握 (イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討 (ウ) 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進 (エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援 (オ) 在宅医療・介護関係者に関する相談支援 (カ) 医療・介護関係者の研修 (キ) 地域住民への普及啓発 (ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携 ・平成30年3月に住民による「あしや助けあい・支えあいの会」が発足しました。 ・平成29年6月に認知症初期集中支援チームを設置しました。 ○認知症地域支援推進員数 平成27年度 2名 平成28年度 2名 平成29年度 3名 平成30年度 3名 ○地域ケア会議開催数 平成27年度 6回 平成28年度 5回 平成29年度 3回 平成30年度 4回 ○定期巡回・随時対応型訪問介護看護 平成30年度 町内1箇所整備</p>
<p>安全・安心な地域づくり 担当課：環境住宅課、総務課</p> <p>④ 防犯パトロールなど、各種団体との連携による地域ぐるみの防犯活動を推進するとともに、防犯街灯のLED化や防犯カメラの設置など、防犯環境の整備を推進します。また、地域住民で助け合う自主防災組織の充実・強化を図り、地域での防災訓練を実施することで、安全で安心な地域づくりを推進します。</p>	一部実施	一部実施	検討	検討	<p>・自主防災組織による防災訓練年間実施回数 29回</p>	<p>自主防災組織による防災訓練年間実施回数 H27 2件 (三軒屋、第三緑ヶ丘) H28 1件 (全自主防災組織参加) H29 0件 H30 2件 (幸町区、芦屋小学校)</p>	<p>【総務課】 ・自主防災組織は30自治区のうち26自治区において組織されている。平成27年度以降の新規組織の設立は実現していません。 ・平成28年11月に内閣府共催の地震津波避難訓練を実施し、全ての自主防災組織による参加を得ました。 ・平成31年3月に幸町区自主防災組織による津波避難訓練を実施しました。企画段階から助言、情報提供を実施し、出前講座として訓練前の基礎教養を行いました。また、航空自衛隊芦屋基地と締結した災害時における一時避難施設の使用に関する覚書に準じ、芦屋小学校1年生児童の基地への避難訓練を実施しました。 【環境住宅課】 防犯パトロールは毎年毎月1回実施している。防犯街灯のLED化は平成28年度から工事を開始し、概ね全ての工事が平成30年度で終了しました。</p>	B		<p>【総務課】 ○自主防災組織設立状況 平成27年度 26/30自治区 平成28年度 26/30自治区 平成29年度 26/30自治区 平成30年度 26/30自治区 ○自主防災組織参加訓練 平成27年度 2件 (三軒屋、第三緑ヶ丘) 平成28年度 1件 (全自主防災組織参加) 平成29年度 0件 平成30年度 1件 (幸町区自主防災組織) ○芦屋基地避難訓練 平成30年度 1件 (芦屋小学校1年生児童) 【環境住宅課】 ○防犯街灯LED化件数 平成28年度 360件 平成29年度 266件 平成30年度 140件</p> <p>庶務係：B 地域振興・交通係：A</p>

3 広域連携の推進												
No.	実施項目 実施概要	年度				令和元年度目標値 及び備考など	重要業績評価指数 (K P I)	実施状況等 (平成30年度)	目標の達成状況		左記 (実施状況等 (平成30年度)) の根拠	
		27	28	29	30				R1	状況		状況が「C」「D」の場合の理由
①	北九州市との連携中核都市圏構想の推進 担当課：企画政策課	実施	実施	実施	実施	・北九州市との連携事業数 25件	北九州市との連携事業数 H27 0件 H28 10件 H29 18件 H30 17件	・連携ビジョンに基づき共同事業推進 (公共水道広域化協議会) と、今後の事業化にむけた各担当間での情報交換等を実施している。併せて、北九州市の施設広域利用化など住民生活の向上に向けた協議を推進しています。 ・連携ビジョンの見直しに伴い、成年後見制度利用促進基本計画に位置づけられる「中核機関」の共同利用について提案を行い、令和元年度から実施する予定です。 ・地方創生推進交付金による共同事業として、首都圏におけるプロモーション事業を実施。浅草にある、まるごとっぽんブースに出展し、特産品等のテストマーケティングと各市町のプロモーションを展開しました。	B		○北九州との連携事業数 平成27年度 0件 平成28年度 10件 平成29年度 18件 平成30年度 17件 ○まるごとっぽんプロモーション回数 平成27年度 商品数 0件/ PR 0回 平成28年度 商品数 0件/ PR 1回 平成29年度 商品数 6件/ PR 0回 平成30年度 商品数 1件/ PR 1回	
	遠賀・中間広域連携推進プロジェクトの推進 担当課：企画政策課											実施

戦略の実現に向けて												
No.	実施項目 実施概要	年度				令和元年度目標値 及び備考など	重要業績評価指数 (K P I)	実施状況等 (平成30年度)	目標の達成状況		左記 (実施状況等 (平成30年度)) の根拠	
		27	28	29	30				R1	状況		状況が「C」「D」の場合の理由
①	連携・ネットワーク強化 担当課：企画政策課	実施	実施	実施	実施			行政内部及び関係機関、関係団体と随時連携を図りました。			4-3-1北九州市との連携中核都市圏構想の推進と同様。	
	行政内部はもちろん、関係機関や関係団体などの情報等の共有や連携・ネットワークの強化を図るとともに、仕組みづくりを推進します。											
②	大学との連携 担当課：企画政策課	実施	実施	実施	実施			○九州女子大学・九州女子短期大学 ・平成28年3月に包括的地域連携協定を締結しました。 ・協定に基づき、平成28年度から大学と連携した事業を実施しました。 ○九州共立大学 ・平成30年8月に包括的地域連携協定を締結しました。			○連携事業数 【九州女子大学・九州女子短期大学】 平成27年度 0事業 ※締結初年度のため 平成28年度 4事業 平成29年度 4事業 平成30年度 5事業 【九州共立大学】 平成30年度 0事業 ※締結初年度のため	
	近隣にある大学と様々な分野で連携を行うことにより、大学のノウハウや学生の若いパワーを活かした交流と地域づくりを推進します。											